

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

1) 達成状況を把握・評価するための委員会等の組織体制と役割

本校の教育課程の企画・調整・全体運営のための全学的な組織として教務委員会があり（資料 2-2-①-1（39 ページに前出））、ほぼ隔週で会議が行われる。準学士課程の学科単位では、学科会議があり、準学士課程及び専攻科課程学生の動向・学習状況・成績について、より詳細な意見交換や検討がなされる（資料 6-1-①-1）。全学生の成績管理は教務係（資料 2-1-①-2（29 ページに前出））が行っている。

資料 6-1-①-1

「学科会議議事録例」

第 16 回学科会議議事録

12 月 19 日（月）16:30～18:20 @電気情報工学科セミナー室
（中略）

■教務委員会関係

- ・報告メール参照（第 15 回教務委員会）
- ・実力試験，到達度試験，四国共通試験の監督割振と出題範囲について
- ・平成 24 年度シラバスの作成について
- ・混合学級に関するアンケートについて
- ・来年度の行事予定

■1 年生

- ・欠席の多い学生
対応済み
- ・生活態度に問題のある学生多し

■2 年生

- ・成績が危うい，勉強状態が危うい学生あり

■3 年生

- ・進級が危うい学生 2 名
- ・欠点単位が多い学生

■4 年生

- ・成績の悪い学生
- ・欠席の多い学生

■5 年生

- ・GPA が 3 を切る学生が増えている
- ・病欠の学生
- ・褒賞について

（出典 電気情報工学科 平成 23 年度 第 16 回学科会議事録 抜粋）

専攻科課程においても、学科会議で日常的な学習状況の把握が行われるが、二つの準学士課程の卒業生で構成される機械・電気工学専攻の学生については、出身学科の学科会議でそれぞれ詳細に取り扱われる。年三回程度、準学士課程の機械工学科と電気情報工学科に所属する教員が一堂に会して「機械・電気工学専攻合同会議」が行われ、同専攻所属学生の学習状況把握や科目の合格判定など、専攻全体に係わる審議を行う（資料 6－1－①－2）。

資料 6－1－①－2

「機械・電気工学専攻合同会議議事録例」

平成 23 年度 第 3 回機械・電気工学専攻合同会議議事録

1. 開催年月日 平成 24 年 2 月 22 日（水）

2. 出席者



3. 議題

(1) 専攻科学生と教員との懇談会(12/2)で出た学生の要望への回答

専攻科棟周辺施設に関する要望：

水場設置，駐輪場拡張，出入り口の暗証番号変更，コピー機の利用方法明示して欲しいについて検討し，要望を叶えることとした。

(2) ME 専攻 1 年生の進路希望状況が各指導教員より報告された。

(3) 専攻科受験生への PR 方法について検討し，積極的にアナウンスする旨了承した。

(4) H24 年度特別実験計画確認（資料配付）

配付資料に基づき、一部変更後、来年度の実験計画が承認された。

(5) 専攻科学生の情報共有のために NetCommons を利用する旨提案があり，了承した。

(6) 専攻科特別研究の作業記録として「研究ノート」を記載させ，修了時には指導教員が回収保管することが確認された。

(7) ME 専攻 2 年生の TOEIC 成績：全員 400 点以上を達成した。

(8) H23 年度特別研究合否判定：資料をプロジェクトで提示

論文評価・発表評価とも合格水準にあり，全員の合格を承認した。

(9) 専攻科生の校外発表について

中四国交流会を含めて，全員が年間一回以上の研究発表を行った。

(10) JABEE ボックスの更新について

従来通りのタイミングと担当者で，実施の督促と確認を行う。（担当：各学科長，教務委員）

以上

(出典 平成 23 年度 第 3 回 機械・電気工学専攻合同会議議事録)

2) 教育目標の達成状況の把握・評価方法

(準学士課程における学習達成状況の把握・評価方法)

本校の教育目的には、準学士課程卒業時あるいは専攻科課程修了時に身につけさせることを明示している(資料1-1-①-3(6ページに前出), 1-1-①-6)。本校の教育は学年進行制のため、学年ごとの教育目的の達成は、教務事項の「進級及び卒業」により判断している(資料5-4-①-2(152ページに前出))。

学年ごとの累積取得単位数割合は累積取得単位数を累積開講単位数で割ったものである。学年が上がるにつれて取得しなければならない単位数の割合は高くなり、教育の目的達成に必要な知識獲得が保証できる(資料6-1-①-3)。

2-1) 選択科目が教育の目的達成に与える影響

2-1-a) 学科固有の選択科目

建設システム工学科・環境都市デザイン工学科においては、4学年、5学年に「建築系選択科目」と「土木系選択科目」に分類される選択科目を多数配置しており、他学科より開講単位数が多い(資料6-1-①-4)。これにより取得単位数割合は見かけ上、下がる。環境都市デザイン工学科では建築士試験指定科目を設定することにより、教育の目的達成に必要な知識を身につけさせている(資料6-1-①-4)。

資料6-1-①-3

「準学士課程の累積開講単位数と累積取得単位数」

機械工学科					
学年	1	2	3	4	5
累積開講単位数	33	66	99	138 (140)	176 (178)
進級要件：累積取得単位数	28	60	93	131	167
累積取得単位数割合 [%]	84.8	90.9	93.9	94.9 (93.6)	94.9 (93.8)

電気工学科・電気情報工学科					
学年	1	2	3	4	5
累積開講単位数	33	66	99	138 (140)	174 (176)
進級要件：累積取得単位数	28	60	93	131	167
取得単位数割合 [%]	84.8	90.9	93.9	94.9 (93.6)	96.0 (94.9)

物質工学科					
学年	1	2	3	4	5
累積開講単位数	33	66	99	138 (140)	176 (178)
進級要件：累積取得単位数	28	60	93	131	167
取得単位数割合 [%]	84.8	90.9	93.9	94.9 (93.6)	94.9 (93.8)

建設システム工学科・環境都市デザイン工学科					
学年	1	2	3	4	5
累積開講単位数	33	66	99	142 (144)	186 (188)
進級要件：累積取得単位数	28	60	93	131	167
取得単位数割合 [%]	84.8	90.9	93.9	94.3 (91.0)	89.8 (88.8)

※ 4年次の校外実習(選択科目：0～2単位)を含めた累積開講単位数などを()内に示した。

(出典 平成23年度 学生便覧 P. 3, P. 30～35 より抜粋し、取得単位数割合を追加)

	理	学	業	研	究	8				8	必		
専 門 科 目	専門科目(共通)小計					59	2	9	15	11	22		
	建築デザイン系選択	建築一般構造					2				2		学, #, ¥
		建築史					2				2		学, #, ¥
		建築設備					2					2	学, #, ¥
		建築環境工学					2				2		学, #, ¥
		建築計画Ⅰ					2				2		学, #, ¥
		建築計画Ⅱ					2					2	学, #, ¥
		建築構造計画					2					2	学, #, ¥
		建築施工及び建築法規					2					2	学, #, ¥
	土木デザイン系選択	建築設計製図					3					3	#, ¥
		橋梁工学					2					2	学, #
		水理学Ⅱ					2				2		学, #
		環境水資源学					2					2	学, #
		海岸水理学					2					2	学, #
		水環境工学Ⅱ					2				2		学, #
		交通工学					2					2	学, #
選択科目小計					31	0	0	0	14	17			
環境都市デザイン工学科合計					186	33	33	33	43	44			
専門	共通	校外実習(選択)			1~2				1~2				
選択科目合計					2~3				1~2	1			

- ・「※」科目は、いずれかを選択。
- ・「＊」印科目の中から、6単位以上修得を要する。
- ・「学」印は、第14条第3項に規定する学修単位による授業科目を示す。
- ・「必」印は、必ず単位を修得しなければならない科目を示す。
- ・「#」印科目（選択科目）の中から、12単位以上27単位以下修得を要する。
- ・「≡」印科目は、建築士試験指定科目（詳細は別途：40単位以上（一部必修）の修得を要する）を示す。

2-1-b) 全学科共通の選択科目

準学士課程のすべての学科に共通な選択科目は最大でも合計6単位と少ないため（資料6－1－①－5），どのように選択しても教育の目的達成に大きな影響はない。唯一「校外実習」（未受講可，最大2単位）は，教育の目的で謳う「実践的な能力を育成する」ために高い効果が期待できる科目であるが，同様な効果がある「卒業研究」（8単位，必修科目）があるため，「校外実習」によらずとも教育の目的達成が可能である。

準学士課程では選択科目の選択肢は限定的で、合計単位数が少なく、科目の選択方法によらず教育の目的が達成できる。従って各学年の修了要件を満たすことで学年修了が確認できる。5年の課程修了により、教育の目的を達成できたことが確認できる。

資料 6-1-①-5

「全学科共通の必修選択科目と選択科目」

目	必修選択	法 学 A	1			1		*	2 単位選択
		法 学 B	1			1		*	
		経 済 学	1			1		*	
		心 理 学	1			1		*	
		世 界 文 化 論	1			1		*	
		中 国 語	1			1		*	
		ド イ ツ 語	2			2		*	
		一 般 科 目 合 計			83	31	24	15	
			83	31	25	14	9	4	物質工学科
選 択	数 学 特 論	1						1	
	選 択 科 目 小 計	1						1	

「*」印科目は必修選択科目 2 単位を含め 6 単位以上修得を要する。

(a) 一般科目必修選択科目 (合計 2 単位) と数学特論

専 門 基 礎 科 目	数学概論 A / 数学概論 B *	1				1		*
	応 用 数 学 A	2				2		*, 学
	応 用 数 学 A 演 習	1				1		*
	応 用 物 理 A	1			1			
	応 用 物 理 B	1			1			
	応 用 物 理 C	2				2		*, 学
	応 用 物 理 演 習	1				1		*
プログラミング I		1		1				

(b) 専門基礎科目 (二者択一の 1 単位)

卒 業 研 究		8					8	必
専 門 科 目 小 計		77	2	8	13	22	32	
校 外 実 習 (選 択)		1~2				1~2		
機 械 工 学 科 合 計		176	33	33	33	39	38	
選 択 科 目 合 計		2~3				1~2	1	

- ・「※」科目は、いずれかを選択。
- ・「*」印科目の中から、6 単位以上修得を要する。
- ・「学」印は、第14条第3項に規定する学修単位による授業科目を示す。
- ・「必」印は、必ず単位を修得しなければならない科目を示す。

(c) 校外実習 (1 単位もしくは 2 単位)

(出典 平成 23 年度 学生便覧 P. 30, 34~35)

2-2) 専攻科課程における学習達成状況の把握・評価方法

教育の目的を達成するために必要な科目が配置されており(資料 5-5-②-4~9 (161~166 ページに前出)), 専攻科修了要件(資料 5-8-①-4 (220 ページに前出))を満たすことは、専攻科課程の教育の目的を満足することを包含しているため、専攻科 2 年生の修了要件の満足により専攻科課程の教育の目的達成が判断できる。

3) 進級・卒業（修了）判定のプロセス

準学士課程では教務係が、年4回（前学期中間，前学期末，後学期中間，学年末）作成する「学業成績一覧表」（資料6-1-①-6）により，当該期までの学習状況が確認できる。「学年末」期には「修学状況一覧表（A）」（資料6-1-①-7）が作成され，当該学年までの単位取得状況が確認できる。両者により，学習状況が確認・把握できる。

「学年末」には，学科会議で進級・卒業判定を審議した後に，全教員が参加する卒業判定会議（資料6-1-①-8）において卒業要件を満たしているか確認した上で全学生の進級・卒業認定を行っている。

資料6-1-①-6

「学業成績一覧表」（現地閲覧資料）

（出典 学生課保管資料）

資料6-1-①-7

「修学状況一覧表（A）」（現地閲覧資料）

（出典 学生課保管資料）

資料6-1-①-8

「平成23年度卒業判定会議開催通知メール」

教 員 各 位

校 長 船 橋 英 夫

平成23年度卒業判定会議の開催について（通知）

標記のことについて，下記のとおり開催しますのでご出席くださるようお願いします。

都合により，やむを得ず出席できない場合には，その旨教務係までご連絡ください。

記

日 時 平成24年3月9日（金）9：00～

場 所 専攻科棟 4階 大会議室

議 題

【審議事項】

1. 平成23年度卒業判定について

2. その他

（出典 高知高専サイボウズ 社内メール）

専攻科課程では、教務係が年 2 回（前期末、後期末）作成する「成績一覧表」と、学生が作成する「学習・教育目標達成度点検表」（資料 6－1－①－9）により、各学科会議・専攻会議及び運営会議による修了判定会議で、修了要件を満たしているか確認した上で修了認定を行っている。

専攻科学生の学士の学位は、別途学位授与機構による審査によって得られる（資料 6－1－①－10）。

毎年度終了後、教務主事室では、学生の単位修得状況を集計し、進級時や卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力の達成状況について、進級、卒業（修了）要件確認を整理・分析し、教育の成果について検証している（資料 6－1－①－11）。

資料 6 - 1 - ① - 9

「学習・教育目標達成度点検表」

学習・教育目標達成度点検表

				氏 名													
◎ 単位修得の欄に単位数を入力してください。																	
学年	分類	科 目 名	単 位 数	単 位 修 得	学習・教育目標												
					(A)	数学・自然科学・情報	(B)基礎工学					(C)	(D)			(E)	(F)
							①	②	③	④	⑤		①	②	③		
本科4年	一般科目	哲学(3年)	2														
		英読	1														
		英会話	1														
		S国文学演習	1														
		S法学	1														
		S経済学	1														
		S心理学	1														
		S現代哲学	1														
		S現代地理学	1														
		S世界文化論	1														
		S中国語	1														
		Sドイツ語	2														
	専門基礎科目	応用数学A	2														
		応用数学B	2														
		応用物理C	2														
		S線形代数A	1														
		S線形代数B	1														
		S物理学特論	1														
		S生物学	1														
	機械系科目	電気工学概論	2														
		材料力学	2														
		流体力学	2														
		熱力学	2														
		機械デザイン	2														
		材料学	2														
		設計製図Ⅱ	3														
	電気系科目	工学実験・実習Ⅱ	3														
		S科学技術英語	1														
		機械工学概論	2														
		電気回路	2														
		電子回路	3														
		電子デバイス(3年)	2														
		電子計算機	1														
		マイクロコンピュータ	1														
		電気機器Ⅱ	2														
		制御工学	2														
共通	コンピュータ制御	2															
	電気工学実験	3															
	電気セミナー	1															
	S校外実習	2															
	本科4年 小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

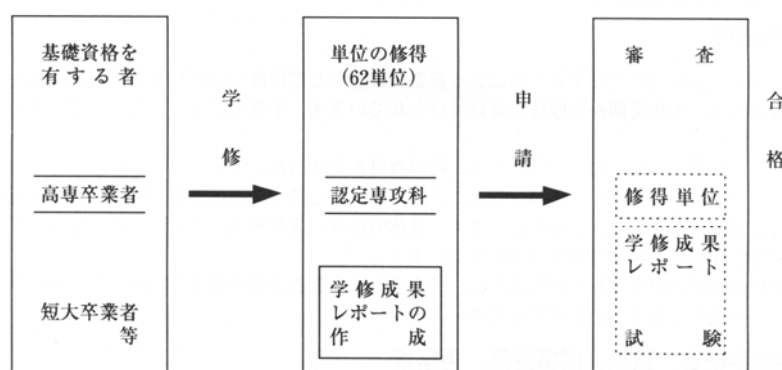
本科5年	一般科目	人間と科学技術	2													
		総合英語Ⅱ	2													
		応用数学C	2													
	専門基礎科目	S数学特論	1													
		計算機演習	2													
		情報処理	2													
	機械系科目	機械力学	2													
		ターボ機械	2													
		熱機関	2													
		機械加工学	1													
		生産工学	2													
		電子工学概論	2													
		制御工学	2													
		計測工学	2													
		機械工学演習	1													
		科学技術英語	1													
	電気系科目	環境工学	2													
		工学実験Ⅱ	3													
		通信方式	2													
		ネットワーク工学演習	3													
		計算機アーキテクチャ	1													
		電磁波工学	2													
		エネルギーシステム工学	2													
		パワーエレクトロニクス	2													
		電子応用	2													
		電気・電子材料	2													
共通	機械系科目	機械工学概論	2													
		工業英語	1													
		電気工学実験Ⅳ	3													
		卒業研究	6													
本科5年 小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(出典 学生課保管資料)

「学位（学士）の取得手続き」

4. 学位（学士）の取得

平成 3 年 7 月に学位授与機構（平成 12 年 4 月に大学評価・学位授与機構となる）が創設され、高等専門学校卒業生で一定の要件を満たした場合、大学評価・学位授与機構の審査に合格すれば、学士の学位が取得できます。



(1) 申請の要件

大学評価・学位授与機構の認定を受けた専攻科において62単位以上を修得していること。

※本校の専攻科は、大学評価・学位授与機構の認定を受けています。

(2) 申請の時期

学位の審査申請は、4 月期と 10 月期の年 2 回ですが、高専専攻科の場合は、2 年生の 10 月期に修了見込みで申請できます。申請に際しては、学位授与（見込み）申請書類と学修成果レポートを大学評価・学位授与機構に提出します。

(3) 審査内容

大学評価・学位授与機構の審査は次の 2 段階になります。

- (1) 「修得単位の審査」：要件に適合しているか。
 - (2) 「学修成果・試験の審査」：学士の水準に達しているか。
- (1), (2)のいずれもが「可」と判定された場合に合格となります。

※「修得単位の審査」は、次の二つの要件

- ①専攻科等において、62単位以上修得しているか。
- ②単位取得状況が申請する専攻分野の基準を満足しているか。

について行われます。本校卒業生の場合は、専攻科を修了すれば、審査基準を満足しています。必ず各自で大学評価・学位授与機構発行の小冊子：「新しい学士への途」を参照して、確認しておいてください。本校卒業生以外の場合は、修得単位の審査に合格できるように、専攻主任が入学時に履修指導を行います。

※「学修成果」は、レポート（A 4 版用紙（40字×30行）10枚以上17枚以下）として、申請時（10 月）に提出します。

※「試験」は、12月に札幌、東京、大阪、福岡において、90分の小論文試験が行われます。出題は数問程度で、学修成果レポートの内容やその分野の基礎となる幅広い学習成果が問われることが多いようです。

(4) 単位修得証明書の提出

見込み申請科目については、3 月中旬、単位修得後速やかに学位授与機構へ単位修得証明書を提出する必要があります。

(5) 審査結果の通知

大学評価・学位授与機構による「学修成果・試験の審査」の結果は 2 月下旬に本人宛てに通知されます。「修得単位の審査」の結果は、単位修得証明書を送付後、3 月下旬に本人宛に通知されます。合格の場合には、通知後 1 ヶ月以内に大学評価・学位授与機構から学士の学位記が授与されます。（4 月から住所が変更になる場合には、学位記の郵送先を大学評価・学位授与機構に届け出てください。）

（出典）西田謙

（出典 平成 23 年度 専攻科学生の手引 P. 6 ～ 7）

資料 6－1－①－11

「進級，卒業（修了）要件確認を整理・分析」（現地閲覧資料）

（出典 学生課保管資料）

4) 活動状況が把握できる議事録等

学科会議と専攻会議の議事録は，それぞれの学科と専攻で保管されている。卒業判定会議，進級判定会議，及び，専攻科修了判定会議の議事録は，学生課教務係で保管されている。運営会議の議事録は，総務課で保管されている（資料 6－1－①－12）。

資料 6－1－①－12

「運営会議議事録」（現地閲覧資料）

（出典 平成 23 年度 運営会議議事録）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，教育の目的に沿って，学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力の達成要件として準学士課程の卒業要件及び専攻科課程の修了要件を定めて，卒業（修了）判定会議において卒業（修了）認定を実施している。卒業要件，修了要件は適切かつ明確に定められており，これを満足することで教育の目的が達成できたことが確認できる。

卒業・修了認定のための仕組みである学科会議・専攻会議，教務委員会，進級判定会議・卒業判定会議・修了判定会議等が，達成状況を把握・評価するために機能している。

以上より，課程ごとの教育目的に沿った形で，学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点 6－1－②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

単位修得状況と留年退学率の集計値，準学士課程の資格取得状況，専攻科課程の TOEIC スコアの変化及び教育の目的のうち必要な専門知識獲得と「実践的な能力を育成する」の達成確認に位置づけられ準学士課程の卒業研究，専攻科課程の特別研究をもとに教育の成果や効果を示す。

〈準学士課程〉

1) 単位取得状況

すべての科目は，必修科目と必履修科目及び選択科目に分類される。必修科目を修得できない場合は，当該学年の課程修了が認められない。必履修科目は当該科目の単位が修得できなくても，他の進級・卒業要件を満たしていれば，進級・卒業が認められる。

必履修科目で単位認定されなかった科目数は，平成 22, 23 年度で多くなった（資料 6－1－②－1）。

学習意欲減退などで長期欠席する者が多く在籍し、彼らが多くの科目で不合格となったことが影響している。しかし全体で見ると、未修得科目数を全学生数で割った数は、0.85 と 0.75 科目でしかなく、良好な修得状況である。

学業成績の平均点は、5段階法（資料 5－4－①－2（152 ページに前出））で評価している。学年修了・進級のためには単位当たり 3.00 以上が必要であるが、平均点は 4.25～4.30 であり、進級基準を大きく上回っており、良好である。

資料 6－1－②－1

「必履修科目で単位認定されなかった科目数と学業成績評点の平均値」

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
未修得科目数※	433	782	688
平均点	4.30	4.25	4.27

※ 必履修科目のうち、単位認定されなかった科目のべ数

（出典 学生課保管資料）

2) 進級・卒業・留年・退学等の状況

平成 21 年度以降、年度当初（4 月）の学生数を基準とする進級・卒業率は 93.2% であり、高い値を維持している（資料 6－1－②－2）。

資料 6－1－②－2

「退学・休学・原級留置と進級・卒業（修了）率」

年度	4月在籍	退学等	休学	原級留置	進級・卒業（修了）	進級・卒業（修了）率 [%]
21	900	27	16	18	839	93.2
22	916	24	11	27	854	93.2
23	908	24	10	28	846	93.2

（出典 学生課保管資料）

3) 資格取得等の状況

準学士課程では、実用英語検定、情報技術者試験、専門的な国家資格等の資格取得後に学生が申請すれば、卒業要件に入る単位として認定している（資料 5－1－②－3（115 ページに前出））。のべ申請者数 32 名は準学士課程全学生数 854 名の 3.7% に相当する（資料 6－1－②－3）。本校の教育の成果を基礎として、自己研鑽を積み合格しているといえる。

資料 6-1-②-3

「平成 23 年度の資格取得に伴う単位認定状況」

のべ数	語学系	情報系	専門系	合計
申請者	14	2	16	32
認定単位	19	3	19	41

(出典 平成 23 年度 学年末 学業成績一覧表より抽出)

4) 卒業研究・学会発表・学会表彰

準学士課程の 5 年生で行う卒業研究の成果は、卒業論文としてまとめると共に、学科ごとに成果発表会（卒業研究発表会）を行っている（資料 6-1-②-4）。また各種学会の学術講演会で年間、十数件から二十数件程度の研究発表を行い、毎年数名の学生が学会等から表彰を受け、教員と連名で記した論文が学術雑誌に掲載されている（資料 6-1-②-5）。

資料 6-1-②-4

「平成 23 年度 卒業論文概要集」（現地閲覧資料）

(出典 各学科保管資料)

資料 6-1-②-5

「平成 21～24 年度の準学士課程 5 年生による研究業績」

種別	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	合計
地区学会	17	13	11	7	48
全国学会	7	7	3	0	17
国際会議	1	0	0	0	1
学術誌掲載	0	1	2	0	3
学会表彰等	3	2	3	1	9

※ H24 年度は、5 月 1 日時点で発表・掲載が確定した数

(出典 高知工業高等専門学校 学術紀要 第 55～57 号 抄録、各学科ウェブサイト 他より抽出)

〈専攻科課程〉

1) 単位取得状況

専攻科修了要件は 62 単位以上だが、修了時の平均取得単位数は 64 以上である（資料 6-1-②-6）。成績 60 点以上の科目が単位認定されるが、全科目の平均点は 82 点以上である。修了時に、学位授与機構の学士(工学)の試験を受験した学生のうち平成 22 年度の 1 名を除いた全員が合格し学士(工学)の資格を得ている（資料 6-1-②-7）。

資料 6-1-②-6

「専攻科修了時の取得単位数」

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
修了者数	20	23	31
未修得科目数※	11	10	7
平均取得単位数	64.1	65.8	65.8
平均点	82.1	85.5	84.7

※ 単位認定されなかった科目ののべ数

(出典 学生課保管資料)

2) 資格等の取得状況

学位授与試験には、受験した受験生のほぼ全員が合格し、その多くが JABEE 教育プログラム修了認定されている。平成 21 年度に JABEE 教育プログラム修了が認められなかった 3 名のうち 1 名と平成 22 年度に学士を得られなかった 1 名は、必要条件を満たしたことが確認できたため、平成 23 年度に JABEE 教育プログラム修了が認定された。

資料 6-1-②-7

「専攻科修了生の学位（学士）取得と JABEE 修了認定数」

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
修了者数	20	23	31
学士取得者数	20	22 ^{※2}	31
JABEE認定者数	17 ^{※1}	22 ^{※2}	31

※1 平成 21 年度は JABEE 未認定者が 3 名いたが、うち 1 名は、平成 23 年度の再申請によって認定された。

※2 平成 22 年度の学士未取得者は、再申請によって学士取得し、JABEE 修了された。

(出典 学生課保管資料)

専攻科課程では TOEIC 受験を義務付けている。学内で年間二回（6 月、12 月）TOEIC IP 試験を実施している。専攻科 10 期入学生（平成 22 年度修了生）と 11 期入学生（平成 23 年度修了生）の TOEIC スコアの履歴を資料 6-1-②-8 に示す。

資料 6-1-②-8

「TOEIC スコアの変遷（10 期、11 期入学生）」（現地閲覧資料）

(出典 教務主事室保管資料 TOEIC 試験成績)

10 期、11 期入学生ともに、ほぼ全員が複数回受験している。初回受験時と最終受験回のスコア比較では、過半数が向上しており、教育の成果が上がっていると判断できる。

3) 特別研究・学会発表・学会表彰

専攻科課程 1 年生と 2 年生で行う特別研究の成果は、校内で発表される。1 年生は年度末の 3 月に

「特別研究中間発表会」として行う。これは 1 学年の特別研究（4 単位）の単位認定審査会を兼ねている（資料 6－1－②－9）。

資料 6－1－②－9

「特別研究中間発表の評価に関する案内メール」

件名: [ee-kyoin] 専攻科特別研究中間発表会(3/10)の評価について

日時: 2012年3月8日 20:26:49 JST

宛先: [REDACTED]

機械工学科教員の皆さんへ
電気情報工学科教員の皆さんへ

[REDACTED]@ME専攻主任です。

3月10日（土）の専攻科特別研究中間発表会の評価票を作成しましたので、下記のURLよりダウンロードして頂いて、各自印刷をよろしくお願いします。（メモ用という位置づけで、会場では配布しませんので、ご了承下さい）

センター・サイボウズ>機械・電気工学専攻>特別研究>平成23年度
http://[REDACTED]
H23特別研究評価票1年生.doc

なお、同じURLに
特別研究評価のガイドライン_20120204.doc
特別研究評価の集計について_20120204.doc
があります。

特に、最終評価については論文に対する評価2項目（1）、（2）の平均と発表総合評価（6）の平均点で評価することになっておりますので、ご注意下さい。（発表（1）～（5）は目安）

当日の専攻科特別研究中間発表会では、下記のURLより評価をお願いします。

（出典 高知高専サイボウズ 社内メール）

2 学年の年度末には、「特別研究発表会」として外部にも公開して行う。専攻科課程 2 年間の研究成果は、特別研究論文集として印刷・製本し、他高専など関係機関に配布している（資料 6－1－②－10）。

資料 6－1－②－10

「特別研究論文集 第 11 号」（現地閲覧資料）

校外発表の機会として、毎年 4 月に中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会で、2 年生全員及び 1 年生の希望者が研究発表を行っている（資料 6－1－②－11）。

資料 6－1－②－11

「平成 24 年度 中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集」（現地閲覧資料）

学会の学術講演会や学会誌などへの論文投稿も積極的に行っている（資料 6－1－②－12）。学会

発表件数は、第一著者であるもののみを計上した。前述の中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会での発表は、除外している。学会誌等への論文掲載数に関しては、連名著者分も計上した。「平均業績数」は、学会発表件数と学会誌掲載数の合計を修了生の人数で割って算出した。平成 21 年度が 3.1 件と特に多いが、他年度でも一人二件以上の学会発表を行っている。全国規模の学会での発表が大半であり、国際会議が毎年含まれている点は、高く評価できる。

資料 6－1－②－12

「専攻科学生による学会発表と学会誌への論文掲載件数」

年度	修了人数	地区学会	全国学会	国際会議	学会誌等	平均業績数	学会表彰
21	20	14	44	2	1	3.1	1
22	23	13	32	9	1	2.4	4
23	31	21	42	8	4	2.4	3

※ 修了年度ごとに、専攻科課程二年間分の業績を集計した。在学中に投稿し、修了後に発表したものも含む。

(出典 特別研究論文集 第 9 号～第 11 号の抄録)

準学士課程・専攻科課程在学者の学会表彰や論文コンクールなどでの表彰一覧を、資料 6－1－②－13 に示す。

資料 6－1－②－13

「表彰一覧」(現地閲覧資料)

(出典 高知高専 HP、各学科のウェブサイト及び指導教員からの申告)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、卒業(修了)時に身につけるべき学力や資質・能力ごとの達成要件を明確に定めており、達成要件に定める科目ごとの単位修得率が高率を維持している。学生が卒業(修了)時に身につけるべき学力や資質・能力ごとに配置された授業科目の単位修得状況が良好なことから学生が身につける学力や資質・能力が付与されている。

専攻科課程における TOEIC スコアは、初回受験時より経時向上しているものが大半であり、教育効果が上がっている。また、学会発表件数の数・質ともに高く、学会表彰等も多数あることから卒業研究・特別研究の水準が高いことが伺える。以上より、各学年や卒業(修了)時において学生が身につける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点 6－1－③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

進路は「就職」、「進学」及び「その他」に分類できる。「その他」は、本校の教育の目的の対象外分野の専門学校等への進学者及び卒業・修了時点での進路未確定者の合計である。平成 20～22 年度は、準学士課程卒業生の 50～65%程度が就職、30～45%程度が進学している（資料 6－1－③－1）。平成 20～22 年度は、社会的に大きな変動があったため、これらも大きく変化した。「その他」に分類される状況のものが数%程度いるが、年度経過で減少している。専攻科課程修了生も年度によって就職割合、進学割合が激変しているが、「その他」の割合は、ほぼ 0%となっている。

卒業（修了）人数に対する就職者と進学者の合計を進路決定率と定義すると、準学士課程卒業生では毎年 95%程度、専攻科修了生では平成 20 年度に 95%、平成 21、22 年度は 100%であり、学生の希望に応じた適切な進路指導を行っている。

資料 6－1－③－1

「準学士課程卒業生と専攻科課程修了生の進路状況」

準学士課程卒業生

年度	卒業人数	就職（割合%）	進学（割合%）	その他（割合%）
H20	142	75（52.8）	58（40.8）	9（6.3）
H21	140	69（49.3）	63（45.0）	8（5.7）
H22	152	100（65.8）	47（30.9）	5（3.3）

専攻科課程修了生

年度	修了人数	就職（割合%）	進学（割合%）	その他（割合%）
H20	21	12（57.1）	9（42.9）	1（4.8）
H21	20	16（80.0）	4（20.0）	0（0.0）
H22	23	14（60.9）	9（39.1）	0（0.0）

（出典 高知高専 学校要覧 2011 より抜粋）

資料 6－1－③－2

「準学士課程卒業生の就職に関する職業別人数と産業別人数」

職業分類	H20 年度	H21 年度	H22 年度
本校関連技術者	72	64	97
その他の技術者	2	3	1
事務職他	1	2	2

産業分類	H20 年度	H21 年度	H22 年度
製造業	35	37	63
建設業	7	14	10
電気・ガス・水道	10	8	13
情報通信	4	3	5
運輸業	4	3	0
サービス業	12	0	2
国家・地方公務員	2	3	6
その他	1	1	1

(出典 高知高専 学校基本調査 (平成 20～22 年度より抜粋))

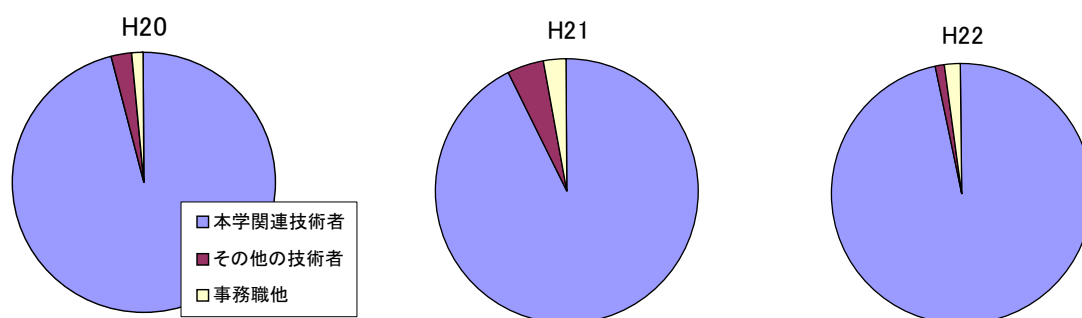
準学士課程卒業生の就職先詳細について、職業別では本校の専門学科に関連が深い分野の技術職（本校関連技術者）と、それ以外の技術職（その他の技術者）及び事務職他に分類した。産業別では、本校の専門学科関連産業とその他の産業、公務員などに分類した。職業分類では、大半の者が、本校関連分野の技術者になっており、教育の目的が達成されていると判断できる。産業分類では、製造業への就職が最も多く、教育の目的である「設計、生産で必要とされる実践的な能力」が涵養できていることが伺える（資料 6－1－③－2，3）。

準学士課程卒業生の進学先は、国公立大学か本校専攻科が大半である。大学では本校の専門学科に応じた理工系学部に進学している（資料 6－1－③－4）。

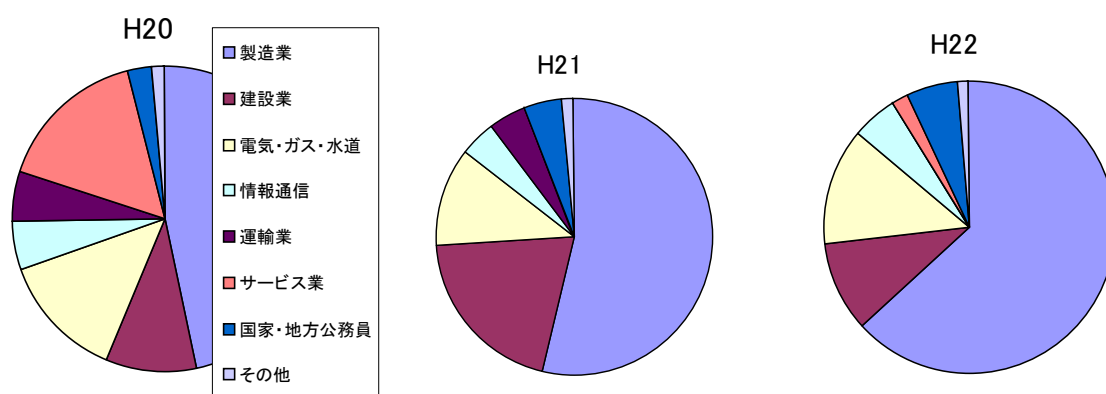
資料 6 - 1 - ③ - 3

「準学士課程卒業生の就職に関する職業別人数と産業別人数」

職業別



産業別



(出典 高知高専 学校基本調査 平成 20～22 年度 より抜粋)

資料 6-1-③-4

「準学士課程卒業生の進学先一覧」

本校卒業生の大学編入学状況								
区分	進学大学名	平成18年度 までの累計	19	20	21	22	23	合計
高専専攻科	高知高専専攻科	160	20	26	30	23	17	276
	東京都立高専専攻科	0		1				1
	豊田高専専攻科	0			1			1
国立	豊橋技術科学大学	126	4	11	4	1	7	153
	長岡技術科学大学	80	3	3	3	1	2	92
	徳島大学	75	2	1	3	5	2	88
	岡山大学	54	4	1			5	64
	東京農工大学	57	3	1				61
	高知大学	28			1			29
	愛媛大学	23	3	1		2		29
	広島大学	24	2				1	27
	九州工業大学	16	1		1			18
	香川大学	13		1	2	1		17
	筑波大学	9		2	1	1	1	14
	山口大学	11	1	1		1		14
	長崎大学	13						13
	東京工業大学	10					2	12
	電気通信大学	11				1		12
	熊本大学	10	1				1	12
	佐賀大学	7	1			1	2	11
	千葉大学	4		1	1	1	2	9
	京都工芸繊維大学	6			1	1		8
	神戸大学	2	3	2				7
	福井大学	5			1			6
	京都大学	4			1			5
	大阪大学	3		1	1			5
	茨城大学	5						5
	東京大学	4						4
	島根大学	4						4
	山梨大学	4						4
	三重大学	3			1			4
	宇都宮大学	2	1			1		4
	名古屋工業大学	3						3
	埼玉大学	3						3
	琉球大学	3						3
	鹿児島大学	1			1		1	3
	山形大学	0				2	1	3
	横浜国立大学	1	1					2
	名古屋大学	1	1					2
	岩手大学	2						2
	金沢大学	2						2
	静岡大学	2						2
	和歌山大学	1					1	2
	室蘭工業大学	1						1
	北見工業大学	1						1
	東北大学	1						1
	群馬大学	1						1
	お茶の水女子大学	1						1
	東京海洋大学	1						1
	新潟大学	1						1
	奈良女子大学	1						1
	鳥取大学	1						1
	大分大学	1						1
	宮崎大学	1						1
	鹿屋体育大学	1						1
	九州大学	0	1					1
	奈良教育大学	0					1	1
公立	高知工科大学	17	3	5	6	3	1	35
	大阪府立大学	6						6
	広島市立大学	6						6
	東京都立大学	2						2
	姫路工業大学	2						2
	前橋工科大学	1	1					2
	兵庫県立大学	1						1
	大阪市立大学	1						1
	京都府立大学	0			1			1
	岡山県立大学	0			1			1
私立	徳島文理大学	4						4
	神戸芸術工科大学	0				1	1	2
	その他大学	20	3		1	1		25
合計		863	59	58	63	47	48	1138

(出典 高知工業高等専門学校 School Guide 2013 P.17)

専攻科修了生も本科卒業生と同様に、それぞれ専門分野関連企業への就職あるいは大学院へ進んでいる（資料 6－1－③－5，6）。

資料 6－1－③－5

「専攻科課程修了生の就職先一覧」

主な就職先

〈企業〉(株)中央エンジニアリング、KYB(株)カヤバ工業、三菱電機エンジニアリング(株)、パシフィックソフトウェア開発(株)、旭化成(株)、富士電機(株)、(株)アルバック、ミヨシ油脂(株)、(株)大塚製薬工場、DIC(株)、東燃ゼネラル石油(株)、(株)エイアンドティー、(株)カネカ、富士設計(株)、神鋼テクノ(株)、富士古河E&C(株)、中外製薬工業(株)、(株)建設技術研究所、(株)明治関西工場、日新電機(株)、(株)ウエザーニューズ、日立化成工業(株)、コスモ石油(株)、サントリー(株)、四国建設コンサルタント(株)、三菱重工環境エンジニアリング(株)、三洋電機(株)、東海旅客鉄道(株)、フジシール(株)、(株)ニコン、(株)マイクロネット、(株)高知カシオ、小川香料(株)、(株)西日本開発コンサルタント、(株)サン土木コンサルタント、都市開発コンサルタント(株)、ドコモエンジニアリング四国(株)、四国電力(株)、大阪ガス(株)、(株)ミロク製作所、日本電気システム建設エンジニアリング(株)、日野自動車(株)、ヒワサキコンピュータシステム(株)、総合警備保障(株)、太陽精機(株)、グンゼ(株)、土佐電子(株)、四国開発(株)、東亜建設工業(株)、四国計測工業(株)、日本精工(株)、NECネットエスアイ(株)、富士電機システムズ(株) 順不同

〈公務員等〉京都大学原子炉実験室、国土交通省四国地方整備局、高知県、高知県警、高知市消防局(上級)、高知市(上級)、土佐市、須崎市、南国市 順不同

(出典 平成 23 年度版 高知工業高等専門学校 専攻科 パンフレット P. 4)

資料 6－1－③－6

「専攻科課程修了生の進学先一覧」

大学院進学状況(過去4年)

進学先大学院	H20	H21	H22	H23	計
徳島大学大学院			1		1
大阪大学大学院			2	2	4
豊橋技術科学大学大学院		1	1	2	4
奈良先端科学技術大学院大学	4	2		1	7
北陸先端科学技術大学院大学				1	1
長岡技術科学大学大学院	2	1	1	1	5
東京工業大学大学院				1	1
名古屋大学大学院			1		1
京都大学大学院			1		1
広島大学大学院				2	2
岡山大学大学院				1	1
合 計	6	4	6	11	28

(出典 平成 23 年度版 高知工業高等専門学校 専攻科 パンフレット P. 4)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業生及び専攻科修了生は、本校の教育の目的で達成した知見にふさわしい進路に進んでおり、進路決定率も高く、良好である、このことから本校の教育の成果や効果が上がっているものと判断される。

観点 6－1－④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成 23 年度末に準学士課程 5 年生及び専攻科 2 年生の学生本人による学習等達成度評価を実施し(資料 6－1－④－1)，教育改善推進委員会が，その分析を行った(資料 6－1－④－2)。

準学士課程 5 年生，専攻科課程 2 年生ともに，卒業・修了時に身につけるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価はおおむね 3 点以上あり良好だが，準学士課程の「3 国際性を身につけ，英語による基本的なコミュニケーション能力を身につける」，専攻科課程の「C 豊かな国際感覚を持ち，英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身につける」に関しては，3 点未満の結果となった学科・専攻がある。Q1 が 2 点台となった専攻は，修了生が二人と少ないため，準学士課程 5 年生や他の専攻と大きく異なる結果となった。

資料 6－1－④－1

「学生による学習達成度評価アンケート用紙」

達成度評価アンケート (M, E 用)
ユーザ ID () m4601 や s1101 など

次の教育目標が達成できたか (知識を習得できたか)，回答欄に数字で回答して下さい。

5: 達成した，4: どちらかといえば達成，3: どちらともいえない，2: どちらかといえば未達成，1: 未達成である。

- Q.1 社会との関わりに配慮した，徳性豊かで風格高い人間・技術者
- Q.2 早期一貫教育による数学・自然科学や機械工学または電気工学に関する専門的な知識・技術
- Q.3 実験・実習を重視して培われた実践的技術
- Q.4 環境，福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー，制御・情報，設計を含む機械・電気を融合した知識・技術
- Q.5 世界に飛躍するために必要な基礎的語学力やコミュニケーション能力
- Q.6 豊かな創造力・指導力を持ち，技術的諸問題を主体的に解決する能力

回答欄

--	--	--	--	--

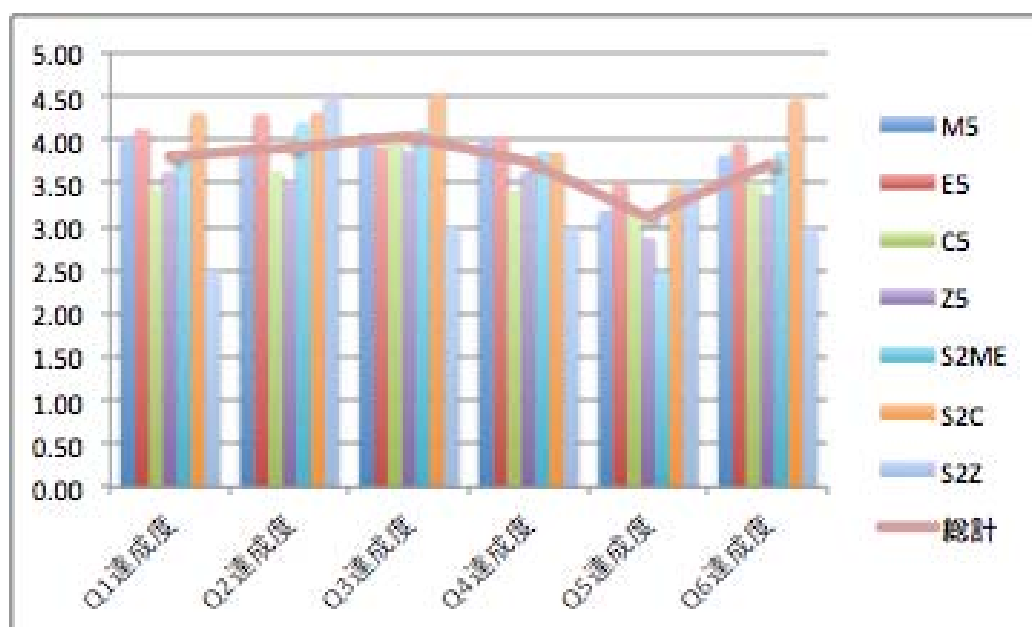
(出典 平成 24 年度 第 2 回 教育改善推進委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 2

「学習達成度評価アンケート集計結果」

Q1-Q6 は、各学科／専攻の学習・教育目標（A-F）に対応

クラス	Q1 達成度	Q2 達成度	Q3 達成度	Q4 達成度	Q5 達成度	Q6 達成度	評価人数
M5	4.04	3.93	4.07	4.00	3.19	3.81	27
E5	4.13	4.29	3.92	4.04	3.50	3.96	24
C5	3.44	3.65	4.09	3.41	3.12	3.50	34
Z5	3.63	3.53	3.87	3.63	2.87	3.37	30
S2ME	3.87	4.20	4.13	3.87	2.47	3.87	15
S2C	4.31	4.31	4.54	3.85	3.46	4.46	13
S2Z	2.50	4.50	3.00	3.00	3.50	3.00	2
総計	3.81	3.91	4.04	3.75	3.11	3.72	145



※ 系列名に「5」が入っているものは準学士課程，「S2」が入っているものは専攻科課程である。

(出典 平成 24 年度 第 2 回 教育改善推進委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生による達成度評価では、3未満で回答された項目がわずかにあったが、全体的には達成できたことを示す3以上の評価であることから、本校の教育の成果や効果が上がっているものと判断できる。

観点 6－1－⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

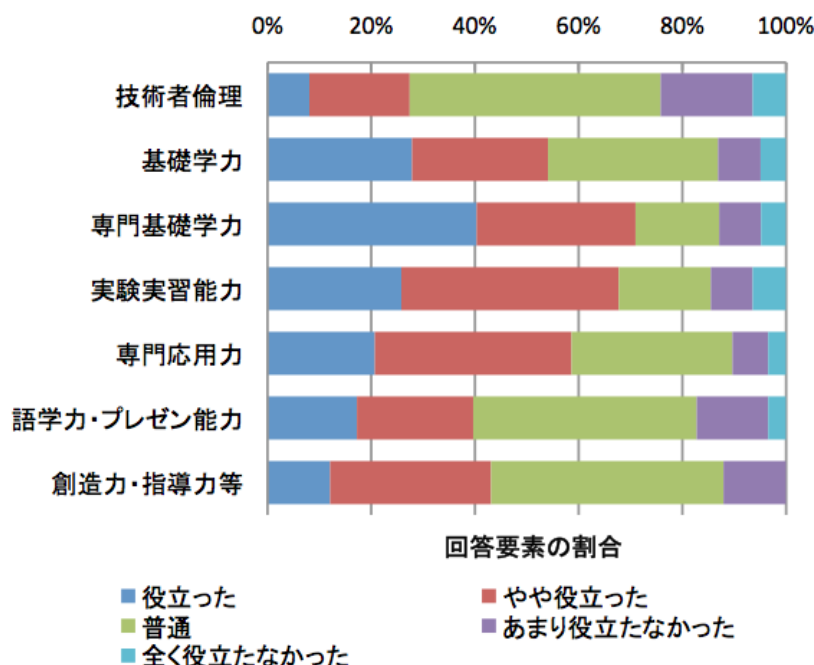
本校教育の自己点検として、3年おきに準学士課程卒業生・専攻科修了生及び彼らの就職先企業を対象としたアンケート調査を実施している。これにより本校の教育成果や、卒業（修了）後の成果などについて調査・検討している。平成 22 年度では、平成 15, 17, 19 年度の準学士課程卒業生全員と平成 13 年度以降の専攻科課程修了生全員を対象とした。

準学士課程卒業生（回答数 62 名）に「準学士課程の教育」について、項目別に、「役立った・やや役立った（やや満足）・普通・あまり役立たなかった・全く役立たなかった」の 5 段階評価で調査した（資料 6－1－⑤－1）。全項目で 75%以上の卒業生が「普通」以上の評価を付けた。各質問で「全く役立たなかった」と評価した者は、「実家の農業を継いだ」など工業系以外の職に就いたものであった。特に基礎学力、専門基礎学力、実験実習能力、専門応用力では過半数が「役立った／やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。

準学士課程卒業生就職先企業を対象（回答数 195 社）に「準学士課程卒業生のレベル」について、項目別に、「満足・やや不満足（やや満足）・普通・やや不足・不足」の 5 段階評価で調査した（資料 6－1－⑤－2）。

資料 6－1－⑤－1

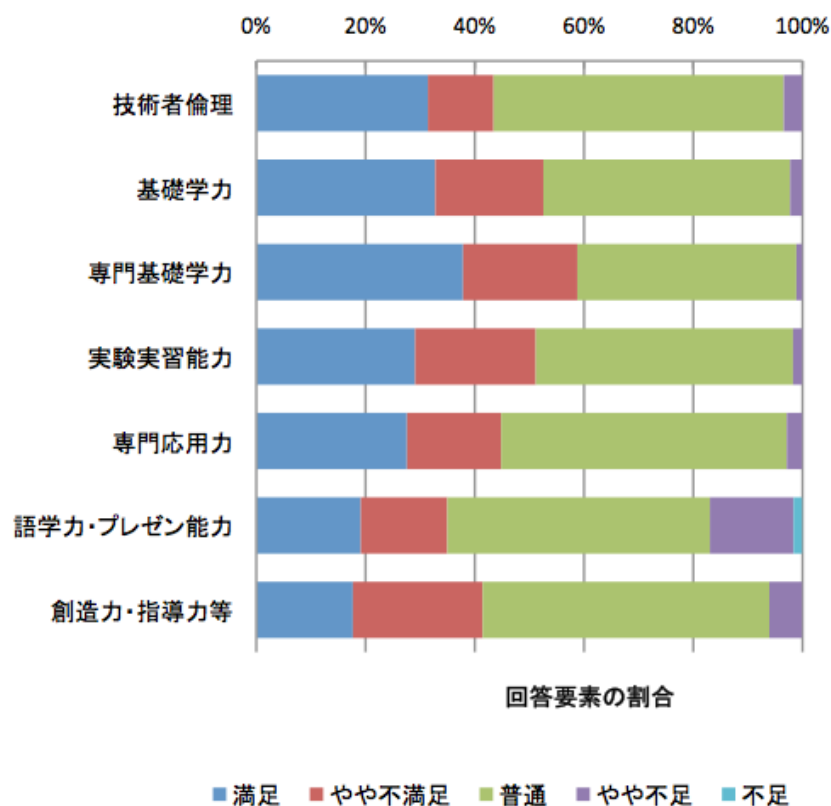
「準学士課程卒業生対象のアンケート集計結果」



（出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告）

資料 6－1－⑤－2

「準学士課程卒業生在籍企業対象のアンケート集計結果」



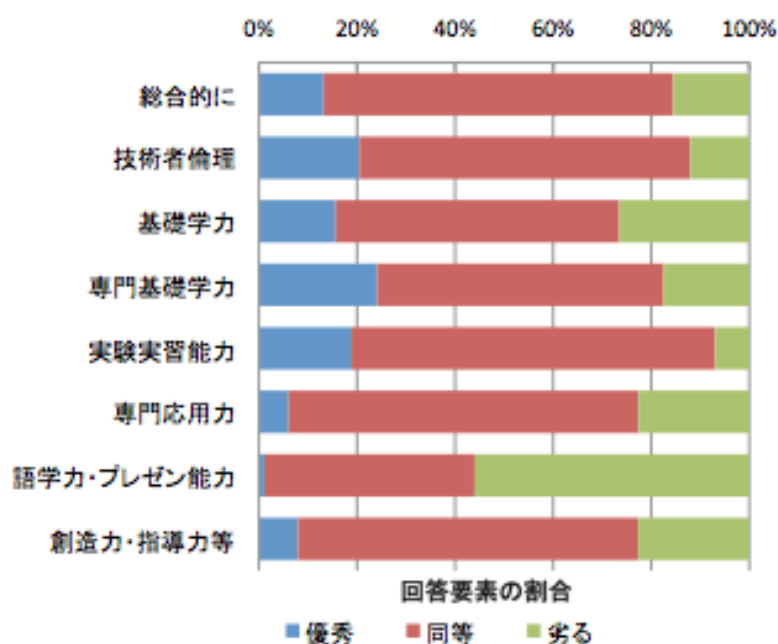
(出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告)

大半の質問項目で 90%以上の企業が「普通」以上と評価した。「高専生の弱点」と指摘されがちな、「基礎語学力・プレゼンテーション（プレゼン）能力」でも 83%であった。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。しかしながら、「語学力・プレゼン能力」では過半数の企業から「劣る」と判断された（資料 6－1－⑤－3）。

資料 6－1－⑤－3

「準学士課程卒業生在籍企業対象のアンケート集計結果（大学学部卒者との能力比較）」



(出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告)

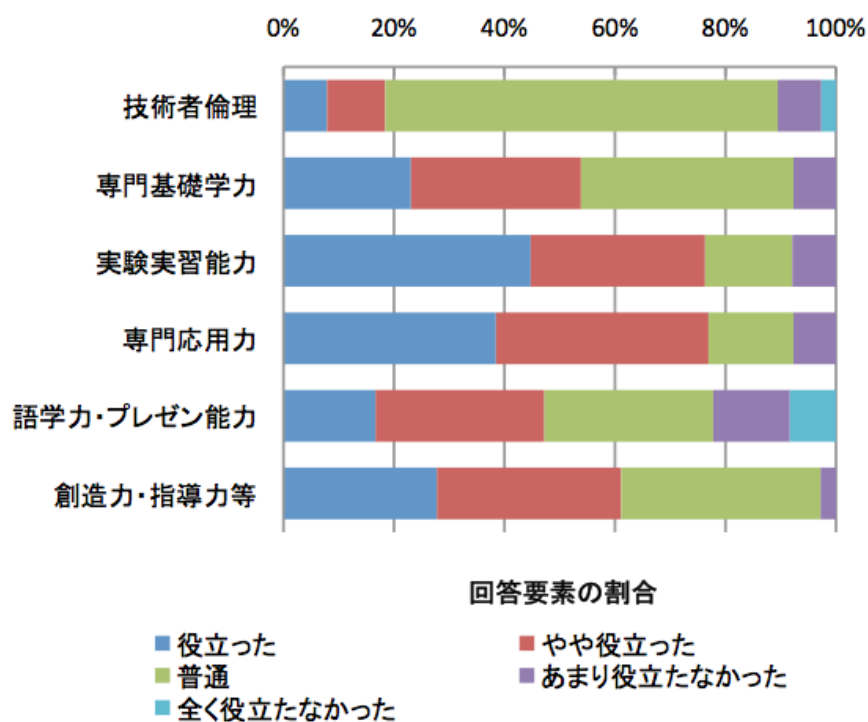
専攻科課程修了生対象（回答数 39 名）の調査では、全質問に対して 77%以上の者が「普通」以上で回答したが、「語学力・プレゼン能力」が最も低くなった（資料 6－1－⑤－4）。「専門基礎学力」、「実験実習能力」、「専門応用力」、「創造力・指導力等」では過半数が「役立った／やや役立った」と回答しており、教育の目的が達成できていることが伺える。

専攻科課程修了生就職先企業（回答数 28 社）への調査では、「基礎語学力・プレゼンテーション（プレゼン）能力」で「不足している」とする回答があったが、その他の質問項目では全ての企業が「普通」以上と評価した（資料 6－1－⑤－5）。

大学学部卒者との比較では、多くの項目で同等以上の能力があると認められている。しかし、「語学力・プレゼン能力」と「創造力・指導力等」ではそれぞれ 20%、10%から「劣る」と評価された（資料 6－1－⑤－6）。

資料 6－1－⑤－4

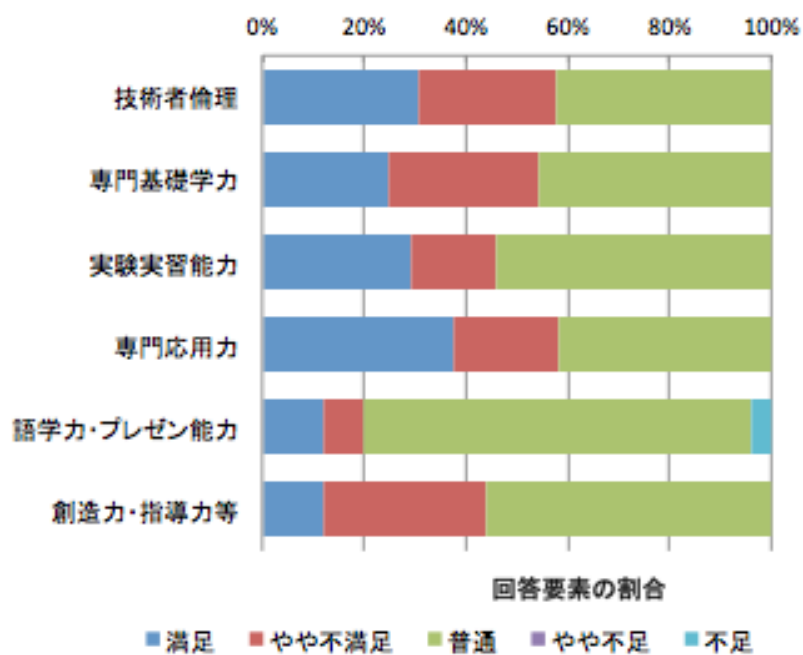
「専攻科課程卒業生対象のアンケート集計結果」



(出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告)

資料 6－1－⑤－5

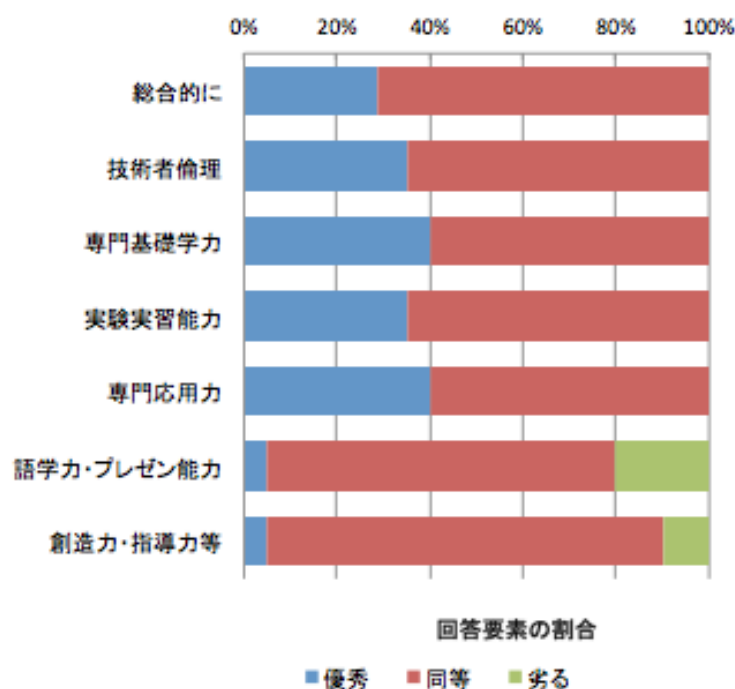
「専攻科課程卒業生在籍企業対象のアンケート集計結果」



(出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告)

資料 6－1－⑤－6

「専攻科課程卒業生在籍企業対象のアンケート集計結果（大学学部卒者との能力比較）」



(出典 平成 22・23 年度 教育改善推進室 学内報告)

(分析結果とその根拠理由)

卒業(修了)生が在学時に身につけた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関して、卒業(修了)生及び就職先から意見を聴取する取組を実施している。本校として期待する教育の成果や効果が高く評価されていることを示す結果を得ており、本校の教育の目的が達成できていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の研究(卒業研究・特別研究)活動が活発で、学会発表件数も多い。進級、卒業、就職、進学(大学3年生編入学、本校専攻科、大学院)について好成績が得られている。アンケート評価では学生によるもの、卒業生(修了生)や就職企業によるもの両方が、定期的に行われている。それらの結果から教育の成果が上がっていると判断できる。

(改善を要する点)

学生による学習達成度評価を実施したが、幾つかの項目に未達成と答えたケースがあった。今後、教育手法及び学生による学習達成度評価の取得方法や活用方法を検討する必要がある。語学力やコミュニケーション能力に関して達成感を得ていない者がおり、これは改善すべきである。また、学生自身による達成度評価は、調査時の学生の気分(例えば就職・研究活動でのつまずきなど)に大きな影響を受けることが懸念される。調査方法や時期などを今後十分に検討する必要がある。

卒業(修了)生及び就職先企業から「語学力・プレゼン能力」が弱いと評価されているケースがある。今後この評価を向上させるための取り組みが必要である。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

学生が身につける学力・能力、養成する人材像などについて、達成状況を把握・評価するための適切な措置が行われている。

学生の達成状況の把握・評価については、学科会議・専攻会議、教務委員会、教育改善推進室、進級判定会議、卒業判定会議で十分に行われている。学業成績の評価は、進級判定会議、卒業判定会議、修了判定会議で行われるが、これらの結果は、教育改善室と教務委員会及び各学科・専攻にフィードバックされ教育改善に活かされている。

学生が身につける学力や資質・能力は、高い進級率や卒業率、外部の資格試験合格数、専攻科課程における TOEIC スコアの経時向上などから達成されている。高学年での研究活動は活発で、学会発表の件数は多く、全国大会や国際会議での発表が含まれており質も高い。これらの結果は、卒業後の進路決定にも反映されており、就職希望者と進学希望者の多くは、その希望を達成できている。

学生自身による学習達成度評価を実施した結果、大勢としては教育の目的を達成したと判断できる。

卒業(修了)生や進路先企業を対象とするアンケート調査は、3年おきに実施している。平成 22 年度の調査結果より、卒業生(修了)生と受け入れ企業の双方から高い評価を得ており、本校の教育の目的が達成できていることが確認できた。

以上より、教育の目的の意図している学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像などに照らして、教育の成果や効果が上がっている。